# 安曇野ちひろ美術館 美術館だより

No.79

2014.7.11



# ちひろ没後40年 ちひろの歩み - 平和を願い子どもを描き続けた画家 -

●2014年7月25日(金)~9月16日(火)

青春時代を第二次世界大戦の戦時下に過ごし、戦後は画家として、またひとりの母親として、平和を願い子どもを描き続けた画家いわさきちひろ。本展では、画家を目指して模索した20代の初期素描から最晩年までの作品を展示するほか、写真や資料をもとに岩崎家と戦争の関わりや時代背景にも焦点をあてながら、ちひろの人生とその全画業をたどります。

### 岩崎家の戦争体験と画家ちひろの誕生

陸軍の建築技師だった父・正勝、女学校の教職にあった母・文江。1918年に岩崎家の三人姉妹の長女として生まれたちひろは、両親に庇護されて恵まれた少女時代を過ごします(図1)。14歳のときに東京美術学校教授の岡田三郎助のもとに入門、デッサンと油絵を学び、17歳で「朱葉会」の洋画展に入選します。18歳からは書道家の小田周洋に師事、藤原行成流の和仮名を習い始め、代稽古をつけるまでの腕前になります。しかし両親は娘の才能を花嫁修業程度にしか認めず、「岩崎家」を継ぐ長女の縁談を急ぎ、ちひろが20歳のときに婿養子を迎えます。意に

沿わない結婚は2年で破綻、夫の自殺という悲劇的な形で終止符を打ちます。

1940年、母・文江は教職を辞して大日本連合女子青年団の主事となり、満州開拓団に「大陸の花嫁」を送り出す仕事に従事します。1944年、ちひろは「女子義勇隊訓練所」の書道の教師という名目で、女子開拓団とともに旧満州・勃利(現・中国黒龍江省)に渡っています。戦況悪化を見越した部隊長の機転でちひろは無事に帰国を果たしますが、一緒に渡った開拓団員の多くは生還できませんでした。

1945年5月の空襲で東京中野の自宅を 焼け出されたちひろは、疎開先である母 の実家の長野県松本で敗戦後の日々を過 ごします。聖戦と信じて国策を推進する 立場にあった岩崎家の環境は激変します。 父の恩給が停止され、戦後両親は北安曇 郡松川村(安曇野ちひろ美術館所在地) に開拓農民(図3)として入植しました。

敗戦直後からの模索の日々、ちひろは 先の戦争や人生について真剣に向き合い、 後に「戦争が終わって、はじめてなぜ戦 争がおきるのかということが学べまし た。」と語っています。1946年5月、ちひろは画家を目指して単身上京します。昼は新聞記者として働き、夜は日本共産党の「党宣伝芸術学校」で学ぶ一方、丸木俊ら主宰のデッサン会に参加するなど、絵の研鑽に励んでいます(図2)。児童出版の隆盛とともに50年代から紙芝居や絵雑誌、月刊絵本(図4)などで活躍、60年代半ばから絵本作家として独自の絵本表現(図6)を追求していきました。

#### 平和への思い

1967年制作の『わたしがちいさかったときに』(図5)は、広島で被爆した子どもたちの詩や手記に絵を描いた作品です。「どんなに可愛い子どもたちがその場におかれていたかを伝えること」に心を砕き、原爆にさらされた子どもや家族の深い悲しみを鉛筆と薄墨で表現しています。

「青春時代のあの若々しい希望を何もかもうち砕いてしまう戦争体験があったことが、私の生き方を大きく方向づけている」と語り、激動の時代を生きたちひろ。残されたどの絵にも、平和への強い思いが込められています。 (山田実穂)

●展示室3・4

# ちひろ美術館コレクション びっくり!絵本動物園

●2014年7月25日(金)~9月16日(火)

ライオンやゾウ、鳥から架空の生き物であるかっぱや人魚まで、絵本にはさまざまな動物が登場します。本展では、動物に焦点を当て、「ほ乳類」、「鳥類」、「空想上の生き物」、「は虫類」の4つのテーマから作品を紹介します。

#### ほ乳類 ーシカ・キツネー

子どもをミルクで育てるほ乳類は、人間を含み約4700種存在しています。

シカは、雄のみが枝分かれした立派な 角を持つ動物です。ミルコ・ハナークは、 水彩絵の具のにじみやぼかしを駆使し、 若い牡鹿(図1)の逞しく、しなやかな 肢体を表しました。釣りや狩猟を好み、 多くの時間を自然のなかで過ごしたハナークは、豊かな経験と記憶をもとに、生 命力あふれる牡鹿が見せた一瞬の表情を とらえ、描き出しています。

キツネは、人里近くに住む動物です。 エフゲーニー・ラチョフの『てぶくろ』 (図2) は、雪降る森のなか、おじいさんが落した手袋に次々と動物が入り込む ウクライナの民話です。「民話が動物を 通して人間の性格を表しているところに 興味があります」と語るラチョフは、キ ツネの姿態を写実的に描く一方で、民族 衣装を着せて表しました。民話のなかで キツネが象徴する裕福な娘の姿を、視覚 的にユーモラスに表現しています。

# 鳥類 ーニワトリ・カケスー

翼を持ち、飛ぶことができる鳥類は、 山、海、街から北極や南極に至るまで、 広範囲に生息する動物です。

ニワトリは、人間の生活に密着した動物です。祖父母が飼うニワトリに、幼い頃から親しんでいたエリック・カールは、雄鶏(図3)を自ら彩色した薄紙を切り、画面に貼りあわせて表しました。クレヨンの太い線、筆のかすれた線……、薄紙一枚一枚の模様が奏でるリズムにより、色彩美しい雄鶏の姿がつくられています。

村上康成の『ようこそ森へ』(図4) に登場するカケスは、森林に暮らす鳥で す。画家は、白い頭に黒い斑点、左右の 青い羽毛といったカケスの特徴をとらえ、 単純化して描いています。上空から地上 を見下ろす構図を用い、カケスの視点で 人間を観察する楽しさもこの絵本ならで はの魅力です。

# 空想上の生き物 ーかっぱー

絵本には、架空の生き物も登場します。かっぱは、日本に古くから伝わる水中の妖怪です。『かっぱかぞえうた』(図5)は、瀬川康男が「草の下の人達」と呼んで愛したかっぱが登場する物語です。「かっぱと随分ながい間、つきあいつづけてきた。特に東京を去って、山ぐらしに入ってからは、身辺いたるところに、かっぱの存在を感じた。」と語る画家は、本来恐れられる存在でもあるかっぱに、生きる喜びそのものを見出し、野の草花に子どものように戯れる、愛嬌のある姿に描き出しました。

画家たちの描いた動物をとおして、その造形の美しさや、多様な習性、人間社会との深い関わりを見ることができます。 身近な動物から、不思議な動物まで個性豊かな動物が集まる絵本動物園へどうぞお越しください。 (長井瑶子)



図 1 昭和天皇即位の記念式典に出席した両親の記念に。左よりちひろ(9歳)、父正勝(45歳)、妹世史子(8歳)、妹準子(5歳)、母文江(38歳) 1928(昭和3)年11月



図2 子ども 1949年



図3 信州の父母 1951年



図4 楽器を鳴らす子どもたち『みんなでしようよ』(福音館書店)より 1957年



図5 死んだ子どもを抱く目の見えなくなった母親 『わたしがちいさかったときに』(童心社)より 1967年



図 6 海とふたりの子ども『ぽちのきたうみ』(至光社)より 1973年

# ●展示室3 · 4



図1 ミルコ・ハナーク (チェコ) 鹿 1969年



図3 エリック・カール (アメリカ) おんどり 1985年



図 4 村上康成 (日本) 『ようこそ森へ』 (徳間書店) より 1988年



図 2 エフゲーニー・ラチョフ(ロシア) 『てぶくろ』(福音館書店)より 1950年

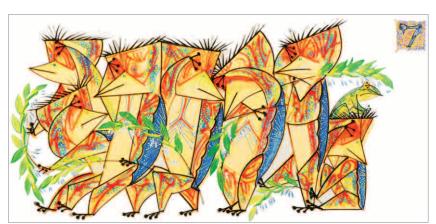


図5 瀬川康男(日本) 『かっぱかぞえうた』(福音館書店)より 1994年

# 〈活動報告〉4月20日(日)『窓ぎわのトットちゃん』朗読会



読み手に迎えたのは、abn長野朝日放送アナウンサーの蔵田玲子さん。『窓ぎわのトットちゃん』に収録されている作品と、展示に出展された作品などを織り交ぜて構成したちひろの絵をスライドで鑑賞しながら、黒柳徹子の幼少期を描いたトットちゃんの物語の朗読が始まりました。授業中にチンドンやさんを呼び込んだり、机のフタを百ぺんくらいパタンパタンと開け閉めしたり……。トットちゃんが小学1年生で普通の学校を退学になる場面では、トットちゃんとお母さん、担任の先生の3人が、まるで演劇のよう

に演じ分けられ、会場からは笑い声が上がりました。蔵田さんのいきいきとした 朗読で、ユニークなトットちゃんの世界が豊かに表現されていきます。

朗読の合間には、いわさきちひろの一人息子の松本猛をゲストに、「徹子の部屋」ならぬ「玲子の部屋」と題した特別対談も行いました。番組さながら「徹子の部屋」のテーマ曲で登壇したふたりが、大きな歓声と拍手で迎えられます。対談では、現在、ちひろ美術館の館長を務める黒柳徹子とちひろの遺族との交流や、日本最大のベストセラーであり、いまなお世界中で愛され続ける『窓ぎわのトットちゃん』の制作当時の秘話などが語られました。

また、親子のコミュニケーションを深めるために絵本の読み聞かせが見直されているという話では、蔵田さんがちひろの絵本『となりにきたこ』を会場に向かって読み聞かせるという、即興おはなしの会にも挑戦。本文を読み進めるだけでなく、描かれた絵について触れたり、質問を投げかけたりと、読み手と聞き手が会話をしながら、絵本を楽しむ方法なども披露されました。



蔵田玲子さん(右)と松本猛

後半の朗読では、将来、トモ工学園の 先生になる、と小林宗作校長先生と約束 するトットちゃんや、第二次世界大戦で トモ工学園が焼けてしまう場面が朗読さ れます。戦禍を受けてもなお、教育への 情熱を失わない校長先生が描かれた章で は、涙を拭う参加者の姿も見られました。

ちひろ没後40年の記念に、今年の7月に絵本としての出版が決まっている『窓ぎわのトットちゃん』。さらにちひろの絵がたくさん入り、トットちゃんと同じくらいの小さな子どもたちにも親しみやすい絵本として生まれます。この朗読会は、世界中で愛されているトットちゃんの物語を改めて堪能できる機会となりました。再びトットちゃんに出会える絵本の出版がより一層楽しみになった一日でした。 (入口あゆみ)

# 〈活動報告〉5月17日(土) ホジェル・メロ ギャラリートーク&ワークショップ

安曇野ちひろ美術館で開催中の企画展「ブラジルからやってきた! 色彩の画家 ホジェル・メロ展 (5月16日~7月22日)」にあわせ、ブラジルから初めて長野県にホジェル・メロがやってきました。

メロは、既にいわさきちひろをブラジ ルにいる時から知っており、「大好きな 画家であるちひろの美術館で自分の展示 が開かれることは本当に嬉しい」と語り ました。展示替え初日に美術館に到着し、 以前からアイディアをあたためていたイ ンスタレーションを2日間かけて、制作 しました。「赤い庭」と題されたこの不思 議な庭は、複数の鉄の棒と、その上につ けられた、球や立方体、ティーカップや、 ブラジルの生き物、メロがつくり上げた 架空の乗り物によって構成されています。 メロと友人、地元松川村の木工作家をは じめ、美術館スタッフらが協力して完成 しました。その赤い色は、日本の神社の 鳥居を見て印象に残った色だといい、こ の庭の中に人々が入り込み、物語の主人 公になることができる、と語りました。

17日午前中のギャラリートークでは、はるばるブラジルから駆け付けたメロの

お兄さんを含む聴衆の前で、作品をそれぞれ丁寧に解説しました。ブラジルの伝統や祭を扱った絵本では、子どもたちに、絵本を通じて失われつつある伝統を知り体験してほしいと述べ、また、『マングローブの子どもたち』は、ゴミ問題を含め、貧しさのなかで働く子どもたちのありのままの生活を、実態として伝えたかったと語りました。女性詩人の詩に絵を加えた『庭園』では、彼の故郷の近くのセハードという半乾燥地帯に実際に生えている花も架空の花も描かれていることを示し、外につくられた「赤い庭」も、と紹介しました。

「子どもの本は、子どもの目から何かを隠すのではなく、あらゆることを伝えるのが大事なのです。そして、それにより、ふたつのとても大切なこと、つまり、勇気と神秘を子どもに与えることができます」としめくくられました。

午後のワークショップ「ブラジルへの 手紙」は、メロ初めての試み。参加者は ブラジルに住む想像上の子どもに宛てた 手紙を書き、書き終えた手紙を封筒に入



「赤い庭」の前で、来館者たちに囲まれるメロ

れ、自分の名前を書いて郵便袋に投函。 その後、参加者は袋から別の人が書いた 封筒を選び、開封して手紙を読みます。 読んで感じたことを今度は絵葉書として 表現し、最後には、手紙を受け取った人 が、絵を見せながら、手紙を皆に読んで 聞かせる、という発表が行われました。 メロは、「本を書くとき、つくり手は架空 の登場人物に宛てた手紙を書くことがあ ります。そのことで、登場人物を、より 深く知ることができるのです」と語り、 ワークショップが絵本づくりのプロセス にも関連していることを明かしました。 ブヤタマさんTシャツを着て笑顔を絶や さない気さくな人柄に、皆メロメロの一 目でした。 (松方路子)

# ちひろを 訪ねる旅邸

#### 白馬岳登山



「神戸原より白馬岳をのぞむ」 1950年 6 月16日



1936年(17歳) \* 1『白馬岳の百年』(菊地俊朗· 著 山と渓谷社)

「あんなに優しいような方だが、歩き方を見ますと、なんだか豪傑が歩くような印象を受けました。 山歩きもスキーもなかなか大したものだったですよ」と、いわさきちひろ語るのは、戦後間もない松本時代から、ちひろをよく知る登山家であり、北アルプス最奥部に位置する山小屋、三俣山荘の主の伊藤正一さんです。

ちひろには、両親の故郷、北アルプスの山々を描いたスケッチが多々ありますが、ちひろ自身も、両親に連れられて、幼いころから山歩きの経験が数多くありました。父親とともに、燕岳登山に出発したのはわずか9歳。その後、女性の社会活動や体力育成に努めた第

六高等女学校の生徒として、幾度 か北アルプスの山に登っています。

ちひろの母・岩崎文江は、植物 採集を目的に、白馬岳に登った最 初に女性のひとりと言われていま すが、その時代は、まさに近代登 山の黎明期と言える頃でした。

本格的な白馬岳登山史がスタートするのは、1883年(明治16)のこと。地元北安曇郡長の窪田畔夫らによる調査目的の登山で、日本近代登山の父イギリス人宣教師ウォルター・ウェストンの登頂より11年先駆けてのもの。以降、白馬岳は、多くの登山家とともに、植物学者を魅了してきました、秘密は日本最大規模の雪渓をいただいて生息する多種多彩な高山植物群。

固有種も多く、「高山植物の宝庫」 と言われます。

そうした植物の調査登山の中心を担った人たちには、地元の教育者も少なくありません。1910年代には、そうした教師の努力で長野高女での登山も行われました。

ちひろのアルバムには、白馬岳の大雪渓にたたずむ第六高女時代の愛らしいちひろの姿があります。前山のない白馬岳はすぐに登山をスタートでき、中でも夏の白馬は、大雪渓のおかげで斜度がほぼ一定で障害物がなく、涼しく高山植物の美しい楽しい山(\*1)なのだそう。写真のちひろの表情からも、青春の輝きとともに、清々しい山の空気が感じられます。 (竹迫祐子)

# ひとこと ふたこと みこと

#### 4月15日(火)

今日は驚きました。黒柳徹子さんの『窓ぎわのトットちゃん』の文章とちひろさんの絵がピッタリでした。いや、それぞれが同じ意図を持って書き、描いたとしか言えないような同調と調和でした。まず、これをコラボレートしたお方に敬意を表します。それと同時に、黒柳さんとちひろさんの、生命の尊厳に対する根を同じとするもの、すなわち「愛」というものに感動せざるを得ませんでした。(M.N)

#### 5月5日(月)

わたしはちひろ美じゅつかんにくるのがたのしみで、いつもほんをよんだり、絵をみたりしています。ちひろさんに出あえて本当によかった。ありがとう。みるだけでゆうきをもらっています。

## 5月8日 (木)

青梅市からやってきました。北アルプスの雪の残る素敵なロケーションのなかに美術館がありました。子どもの幸せを願って絵をかき続けたちひろさん。また、明日から私も頑張ります。 (ひろえ)

#### 6月1日(日)

最初は建物を見に行くという気持ちでいっぱいでしたが、絵を見て、言葉を見るうちに、ちひろさんの世界に引きこまれる自分がいました。私は大学2年で、地元や母と離れひとりで生活しています。今までは気づくことのなかった母の大きな愛情を感じています。親子というつながりは、とても深いものだと気づけた今だからこそ、ちひろさんの絵が心にすーっと深くまで入ってきます。この美術館は、

その人自身にいろいろな表情を見せてくれているように感じ、内藤 廣さんは、そういう心に自然とさせるような、素晴らしい建築家であると感じました。 (H)

#### 6月21日(土)

I feel very excited to come here. There are lots of interesting things. (シンガポールKika 8歳)

#### 6月22日(日)

もしも、僕らが手に触れ、目に見ることができる「未来」があるとすれば、それは紛れもなく子どもたちだ。ちひろさんが自身の仕事の意味を定義づけた文章を読み、その思いを何分の一かでも理解できることに感謝しつつ、そんな一人ひとりの切実な願いとかけはなれていくように見える世相に不安を覚える。 (奈良より)



# 美術館 5月10日 (土) ☆ 5

今日は快晴で、水がはられた田んぼに北アルプスの山々が鏡のように映り込んでいる。美術館の周囲に植えられたサクラやハギなどもいっせいに花を咲かせ、美しい季節を迎えている。

#### 5月19日 (月) ☆



今年から新しく設置された撮影スポット。ちひろの描いた子どもたちと一緒に撮影できるとあって、子どもから大人まで大好評。展示が替わるタイミングで絵もチェンジ。初夏の展示期間は、「五つぶ

のえんどう豆」。親子や友だちと 記念撮影を楽しむ姿に、スタッフ も思わず微笑む。

## 6月8日 (日) 〇

今回のちひろの水彩技法ワークショップは、うちわづくりに挑戦。まずは、普通の画用紙でにじみの練習。その後にうちわ型の紙に、赤・青・黄の3色の水彩絵の具で色をにじませていく。"にじみ"をドライヤーで乾かした後、うちわの骨に慎重に貼り付けて出来上がり!これからの季節にぴったりな、それぞれに個性あふれる、素敵な



うちわが完成した。

#### 6月19日 (木) 〇

本日より9月1日(月)まで、イルフ童画館では、「〈企画展〉キラキラをえがいたふたり 武井武雄と初山滋」が開催される。ちひろも愛した武井武雄と初山滋。縁の深いふたりの展示にちなんで、今回初めてイルフ童画館との共通券を販売。岡谷と安曇野ふたつの地を巡りながら、3人の画家たちの作品をぜひ楽しんでいただきたい。

#### 6月22日(日)

昨年ちひろのパステル画が発見された塩尻市。その後、美術館鑑賞ツアーや市立図書館にちひろコーナーができるなど関係が深まった。今回は塩尻総合文化センターでピエゾグラフ作品でのちひろ展が開催されることに。交流が広がっていくことはとてもうれしい。



# INIEORNATION

# ●次回展示予定 2014年9月19日(金)~11月30日(日)

〈展示室1・2〉ちひろ没後40年

## ちひろの絵本づくり -表現の可能性を求めて-

生涯にわたって絵本表現の 可能性を追求したちひろ。 画家として自立するきっか けとなった紙芝居「お母さ んの話」から、平和への願 いを込めて描いた最後の絵 本『戦火のなかの子どもた ち』まで、ちひろの絵本づ くりの変遷をたどります。

〈展示室2〉 ちひろの人生

〈展示室5〉絵本の歴史



窓ガラスに絵をかく少女 『あめのひのおるすばん』

(至光社) より1968年

ユゼフ・ヴィルコン ブルースを演奏する象 1994年

# 〈展示室3〉 ちひろ美術館コレクション 絵本に耳をかたむけて

私たちの生活にはさまざまな音があふれ ています。目には見えず、留めておけな い"音"を、画家たちは、豊かな表現で 絵本のなかに響かせています。世界各国 の絵本画家が描いた"音"をテーマに、

「音楽」、「人の声」、 「季節の音」など、 音が感じられる作 品を紹介します。

スズキコージ やまのディスコティック 2013年

### 〈展示室4〉〈企画展〉

## 聖コージズキンの誘惑展

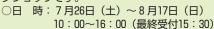
奇想天外な発想とダイナミックな描写で人気 を博している画家スズキコージ。2013年に当 館コレクション作品として初収蔵された「山 のディスコティック」をはじめ、圧倒的な存 在感を放つ作品の数々や、子ども時代の絵日

記などの資料から近 年の絵本作品までを 紹介し、絵本画家と しての創作の軌跡を

安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。 詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。 http://www.chihiro.ip/ TEL, 0261-62-0772 FAX 0261-62-0774

## ●夏休み体験コーナー ちひろの水彩技法体験

13回目を迎える、夏休み恒例の体験コーナー。 中学生ボランティアによるサポートを受け、 "にじみ"のマグネットと朝顔づくり等を体 験。子どもから大人まで気軽に楽しめるワー クショップです。



○会 場:安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

○参加費:100円(入館料別) ○申し込み:不要(参加自由)

# ●美術館探検ツアー

中学生ボランティアが、開催中の展示の見どころや作品の魅力を紹介 し、美術館を探検します。

○日 時:7月26日(土)~8月17日(日)

のうち数日 13:00~13:30

○会 場:安曇野ちひろ美術館

○参加費:無料(入館料別)

○定 員:20名

○申し込み:要予約(当日館内にて受付)



#### ●松川中学校図書委員による絵本の読み聞かせ

松川中学校の図書委員が、絵本の読み聞かせを行います。

〇日 時:8月3日(日)、5日(火)、6日(水)、9日(土)

各日14:00~/15:00~

○会 場:安曇野ちひろ美術館 絵本の部屋

○参加費:無料(入館料別)

○定 員:20名

○申し込み:不要(参加自由)



#### ●おはなしの会

毎月第2・4土曜日 11:00~

参加自由、入館料のみ

# ●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日 参加自由、入館料のみ 14:00~ちひろ展

14:30~世界の絵本画家展または企画展

# ●ちひろ没後40年記念講演 長男・猛が語るちひろ

辿ります。

ちひろの40年目の命日に、ちひろの一人息子である 松本猛が母との思い出を語ります。

○日 時:8月8日(金)16:30~17:30

○会 場:安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

○参加費:無料(入館料別)

○定 員:80名

○申し込み:要事前予約(ちひろ美術館HP、TEL.0261-62-0772にて)

## ●朝のミュージアムを楽しむ

安曇野のさわやかな朝に、ゆったりと展示を鑑賞してみませんか。絵 本カフェでは、美味しい目覚めのコーヒーと特別メニュー(安曇野野 菜のフォカッチャ)をご用意します。

○日 時:7月20日(日)、21日(祝)、8月3日(日)、24日(日) 8:00から特別開館。

#### ●夜のミュージアムを楽しむ

ライトアップされた夜の美術館で、季節のイベントをお楽しみください。 ○日 時:8月23日(土)、9月27日(土) 開館を21時まで延長

### ●イルフ童画館との共通入館券販売!

イルフ童画館での「〈企画展〉キラキラをえがいたふたり 武井武雄と 初山滋」開催期間中、お得な共通入館券を販売します。

○期 間:6月19日(木)~9月1日(月)

○共通入館券: 1000円 (通常1300円)、各館でポストカードプレゼント

# ●お詫びと訂正

安曇野ちひろ美術館 美術館だよりNo.78の記載に誤りがありました。

正しくは以下の通りです。お詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

○〈企画展〉ブラジルからやってきた! 色彩の画家 ホジェル・メロ展の会期

【誤】2014年5月6日(金)~7月22日(火)

【正】2014年5月16日(金)~7月22日(火)

○次回展示予定

【誤】2014年5月16日(金)~7月22日(火)

【正】2014年7月25日(金)~9月16日(火)

CONTENTS 〈展示紹介〉 ちひろ没後40年 ちひろのあゆみ ー平和を願い子どもを描き続けた画家ー/ ちひろ美術館コレクション びっ くり!絵本動物園…23

> 〈活動報告〉 4月20日(日) 「窓ぎわのトットちゃん」朗読会 / 5月17日(土) ホジェル・メロ ギャラリートーク&ワークショップ・・・④ ちひろを訪ねる旅54/ひとことふたことみこと/美術館日記…5

> > 美術館だより No.79 発行2014年7月11日

